

<白金標準、26日のWPIC第3四半期PGM需給報告に注目・・・>



(出所：オアシス)

大統領選にトランプ氏が勝利し、閣僚人事の動きが強まる中で国务大臣に中国強硬派のルビオ氏を指名するなど、中国に対する強硬姿勢が表れている人事を行っている。

特にPGMはバイデン政権が前月のG7でロシアへの経済制裁を強めると発表し、ロシアが最大の産出国であるパラジウムが供給減観測で大きく上昇していたが、大統領選でトランプ次期大統領となった事から、パラジウム価格の下落に白金標準先物も追随しながら週末には4655円まで下値を模索している。ただトランプトレードも株価やビットコインの調整を示すなど一巡した動きに思え、PGM価格も下げ渋る状況に思われる。

特にNY白金は1000ドルを割り込むと950ドル以下で下げ渋る展開を示し、白金標準先物も為替市場の円安を受け4700円～4650円で下げ渋る値動きを続けている。

ただ26日には、WPIC第3四半期PGM需給報告、通期予想更新、2025年第1四半期PGM需給報告が発表される。特に前回9月10日の発表以降、供給不足拡大で4400円から4800円へ上昇しており、26日以降の上昇に期待が高まると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが切り下げ、シグナルは下げている。RCIでも短期が切り下げながら、長期も下げている。ただ日足が200日移動平均線で下値抵抗を強めた値動きを見せており、売り込む事は注意が必要に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,452,000(2024年11月18日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復73,920円(2024年11月18日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>